

資料 5-1

令和3年(2021年)12月22日(水)
第5回市民参加推進審議会

第4回 八王子市市民参加推進審議会（第7期） 会議録

会議名	第4回 八王子市市民参加推進審議会（第7期）
日時	令和3年（2021年）11月17日（水）午後6時30分～午後8時30分
場所	生涯学習センター（クリエイトホール）11階 第7学習室
出席者氏名	委員 小林勉委員、山本薫子委員、井出勲委員、岡崎理香委員、田中泰慶委員、繁野遥香委員、星原徳之委員、山田真実委員
	説明者 —
	事務局 渡邊和樹（広聴課長）、宮野努（広聴課主査）、菅野季代美（広聴課主任）
	その他市側出席者 古川由美子（総合経営部長）、小俣英一（子ども家庭部青少年若者課長）、吉岡淳二（子ども家庭部青少年若者課主査）
欠席者氏名	なし
議題	1. 諮問事項「若い世代の市民参加の推進について」の議論 (1) 配布資料を基に意見聴取
公開・非公開の別	公開
非公開理由	—
傍聴人の数	なし
配付資料名	資料4-1：第3回八王子市市民参加推進審議会まとめ 資料4-2：現役・就労世代（39歳以下）のライフステージ等による区分 資料4-3：マーケティングの種類・ターゲット区分 資料4-4：「市政情報の入手方法と効果的な発信」「関心のある情報や発信してほしい情報」 資料4-5：世代ごとの主なコミュニケーション手段 資料4-6：LINEを利用する都内自治体 資料4-7：第3回八王子市市民参加推進審議会（第7期）会議録
議事内容	次ページ以降のとおり

【議事内容】

開会

- 小林会長
- ・第4回市民参加推進審議会を開催する。
 - ・本日は半数以上の出席があるため会議は成立する。
 - ・傍聴を希望される方はいるか。

(事務局確認するが傍聴者なし)

(青少年若者課の小俣課長と吉岡主査の紹介)

- 小林会長
- ・では「若い世代の市民参加の推進について」の議論に入る。

1. 諮問事項「若い世代の市民参加の推進について」の議論

(1) 第3回審議会の論点整理

- 小林会長
- (資料をもとに説明)

【資料4-1 (前回のまとめ)】

- ・市民参加を促進するための現状、課題、方策についてカテゴリーを3つに分けて、きっかけがあれば市民参加しそうな「参加予備群の市民」に焦点をあてて意見をもらった。成人式、野良猫問題、SDGsに関するシュミレーションゲーム、お父さんお帰りなさいパーティー、町会活動、ボランティア活動、ゲームユーザーを巻き込む工夫などの意見があった。そのようなアクティビティがすでに八王子市には存在している。さらに、健康づくりでポイントをためようという65歳以上対象の「てくポ」が始まったとショッパーの記事に掲載されていた。
- ・そういった情報が特定の層には届いているが、マジョリティの層に届かない。情報が届いていない人達にいかにか情報をアプローチしやすくすることが大切で、参加の仕組みをオープンにして、分かりやすく発信し続けることが大事だということで見解がまとまった。

【資料4-2 (ライフステージ等による区分)】

- ・参加予備群の中にもいろいろな状況の市民がいるので、一括りで議論するより対象とする市民を分けたいほうがよいのではないかという意見で一致した。

【資料4-3 (マーケティングの種類・ターゲットの区分)】

- ・第6期の答申にあるが、セグメント化して考える必要があるだろうということで、前回、マーケティング的思考が必要かもしれないという意見がでた。星原委員がF1層とかM1層と話していたが、それらをコンパクトにまとめた資料となる。
- ・いろいろなマーケティングの種類があるが大きく3つくらいの主流がある。1つ目はマスマーケティングで不特定多数の方を対象に画一的なプロモーションを行う、多数の消費者をターゲットにするので非常にコストがかかる。2つ目はダイレクトマーケティングでターゲットを定め、双方向のコミュニケーションにより販売促進を展開するマーケティングで、メールやSNSを利用した双方向性のあるコミュニケーション手法もその1つとなる。3つ目がゲリラマーケティングでコストをかけずに非定型的で型破りな手法である。
- ・第5期まではマスマーケティングの形でいうと市民という雑ばくな枠で捉えていたが、第6期からはダイレクトマーケティングという形で考えた。
- ・ターゲット区分を見ると、流行語にもノミネートされているZ世代などもでてくる

と思うが、星原委員が言っていた F 層 M 層は今結構使われていて、F は女性、M は男性、そして FM 合わせた層で 3 つに分かれる。

- ・ F 1 層の年齢が 20～34 歳で、この世代がもつ特徴は非常に注目されている世代である、消費意欲が強い、美容やスキルアップなど自分にお金をかけることを惜しまない、経済力は他の層に及ばないが、未婚が多いため自由にお金を使える、新たなトレンドにも敏感な年齢である。この F 1 層をいかに取り込むかで販売結果が左右されると言われている。
- ・ M 1 層は労働人口が多い世代で、社会では若い人材として重宝される、情報に敏感で IT に関する知識も豊富である、情報収集はインターネット、自己投資に積極的だがビジネスやスキルアップへの関心が高い、近年は終身雇用への憧れがなくなり、会社に属さず独立したり、副業をして給料と副業収入で生計を立てる人もいる。
- ・ 本審議会でのターゲットは F 1 層及び M 1 層にあたるだろう。
- ・ 資料 4-4 の説明は事務局から説明を願う。

渡邊課長

【資料 4-4 (市政世論調査からの抜粋)】

- ・ 1 ページは、市政情報を何から得ているかという質問で、広報はちおうじが圧倒的に多く、次に町会の回覧版、ホームページ、新聞・テレビの順番になっている。LINE は昨年導入したばかりなので今回の質問が 1 回目になる。
- ・ 2 ページは男女別になっていて、広報はちおうじが多く SNS は上位には入っていない。
- ・ 18 歳から 39 歳の若い世代は広報はちおうじが一番多い。

小林会長

- ・ 広報はちおうじという紙媒体の利用が非常に高いが、世論調査を実施した時点では今日の議題の中心となってくる LINE の稼働が本格的でなかったため、このようなデータになっている。

【資料 4-5 (世代ごとの主なコミュニケーション手段)】

- ・ 渡邊課長から説明があったように紙媒体から情報を獲得されがちだと見受けられるが、それと相反するように、第 6 期答申の中で掲載した総務省出典の、世代ごとのコミュニケーション手段をみると、10 代 20 代 30 代はメールとソーシャルメディアの利用時間が圧倒的に多い。さらに休日はソーシャルメディアを使っている方々が圧倒的に多いという結果となっている。
- ・ 第 6 期でも若い世代への市政の情報発信の手法として、SNS を運用する必要があるのではないかと答申した。我々審議会が訴えていたことを直に受け止め LINE の運用が始まったということとなる。
- ・ 資料 4-6 の説明を事務局から説明願う。

渡邊課長

【資料 4-6 (LINE を利用する都内自治体)】

- ・ 26 市の中では 9 市が LINE を利用しているが、国立市はコロナウイルスの関係だけとか、限定したものになっている。当初八王子市も同じようなものだったが、今年の 9 月にリニューアルして、いろいろな情報が届けられるようになった。セグメント機能と言って、自分に必要なものを登録するとその情報が配信される。
- ・ セグメント機能を使っているのは都内では渋谷区、武蔵野市、それから八王子市となっている。全国的にはもっとあるが都内では 27 自治体が LINE を利用している。

(2) 配付資料を基に議論

- 小林会長
- ・ M I F 1 とされる世代が他の世代と違うところはデジタルネイティブということだ。私がインターネットに接したのは 20 代半ばで、当時外国にいてメールもなかった。郵便も日本に届くのが 1 か月以上かかった。
 - ・ 今はワンクリックで世界中とつながり、オンラインにより会議がリアルタイムにつながる時代になっている。デジタルネイティブに働きかけるものとして LINE は非常に活用され、大きなツールである。
 - ・ 今日は皆さんにスマホや端末で LINE を操作してもらい、率直な感想や意見をいただきたい。
- 渡邊課長
- 【LINE のダウンロードの方法、利用方法、基本メニュー、ホームページ、チャットボット、配信設定、破損情報、市民の声等の説明】
- ・ 八王子市の人口約 56 万人中登録しているのは 1 万 200 人くらいです。9 月にリニューアルする前は約 8000 人だったので約 2000 人増加している。
- 小林会長
- 山田委員
- ・ 操作して感想はあるか。
 - ・ 今、自分の職場のアカウントを作っていて職員に登録させているのですが、八王子市のブロック率はどうかと思った。登録されているのにブロックされていたらもったいない。職場で発信する側の立場で操作すると既読率とブロック率がわかると思う。
 - ・ 八王子市の LINE は使えると一市民として思った。
- 岡崎委員
- ・ 必要なものが十分入っていて、しかも Facebook、Twitter、YouTube に飛ぶようになっていて、私個人的にはいいと思った。
 - ・ 「てくポ」が利用できるのが 65 歳以上限定なので、高齢者だけでなく、若い人も含め、市民みんなが使えるようにして LINE を通して利用できるといいのではないか。
 - ・ 足りないといったらインスタだと思う。若い人たちはインスタの利用が多いので。
- 山本副会長
- 渡邊課長
- ・ 運用はどこの部署が行っているのか。
 - ・ 広報プロモーション課で公式アカウントをとっている。Twitter、Facebook、LINE も同じ部署でやっている。
 - ・ LINE で個人情報扱わない。サーバーも国内のものを使っていると聞いている。
 - ・ 登録者は約 1 万人で、稼働は令和 2 年 9 月、登録者の年代別はわからない。
- 星原委員
- ・ 機能として基本的に必要なものはそろっていて、あとはコンテンツだと思う。簡単にポンポン押していくだけで答えを言ってくれる。市民の声とかいろいろあって、市民にやってほしいことが見えかくれしているが、アカウントを登録してもらおう仕組みがまだないし、登録しなくても困らない状況だと思う。登録したら便利になったとか、楽しいとか、嬉しいとか、儲かったとか、何かインセンティブがないと登録してもらえないと思う。
 - ・ 例えば、市長に直接物申せる目安箱のようなコンテンツをつくり、登録した人は市長に直接伝達できるとか。でも市長が忙しく回答が遅れるなどで何も答えてくれないと思われてしまうと、市長への意図しない不満がたまるので、はっちおうじのようなキャラクターがクッションとして意見を受けて市長に言ってくれるとすとか。
 - ・ 10 代 20 代が登録してよかったと思えるような興味のある情報がのっていない。例えばコロナの情報とか、エンタメ的なことや自分に近い情報を載せるといいと思う。ゲームやオンラインで一般の人たちの活動がアクティブになる施策としては、八王子

市にオフィシャルに認められることだと思う。例えば、高校生、中学生が国体に出たとか、スポーツで一定の成果がでたことを取りあげられれば、自分が載ってるから見にいこうとなり、若者は口コミで広がっていくので、口コミを踏まえてアクションを起こさせるような施策を入れてみるといいと思った。

- ・呼び込みコンテンツと目玉のアクションをあわせもったら登録しようという気になっていくと思った。

繁野委員

- ・以前から八王子市の LINE は登録していた。私だけかもしれないが、公式アカウントは基本通知をオフにしているため通知がたまって気になる情報があれば目を通すといった使い方をしている。文字数が多いと LINE だと読む気がしなくなるので、写真やリンクが貼ってあると短い文字数で興味を引きやすいのではないかと思った。
- ・市の防犯情報はたて続けに 1 日に何回も来ることがあるので、LINE で配信するなら不審者情報を省くとか、見やすいように工夫をしてもらえると嬉しい。

井出委員

- ・私はあまり LINE を使わないので今日初めて登録した。
- ・「てくポ」は仕事で関わっているのでよくわかるが、65 歳以上の方を対象として、ボランティアに参加する、講演会に参加する、運動する、バランスの良い食事を食べる、そうするとポイントになる。介護特別会計の中での事業のため 65 歳以上の方しか登録できない。ただ以前は、ボランティア活動先も 65 歳以上の人が対象でないとポイントにならなかった。元気な高齢者が要介護の高齢者を看るとインセンティブを与えるという制度だったが、今は相手方が子ども食堂でもいいと緩和されてきたので、もう少し垣根なくやってもらえるといいと思った。
- ・インターネットで商品を買うと似たような情報がどんどん入ってくるが、今回発信の設定があるが、気になるものを事前に登録しておくことで市から関連する情報が来る、そういうことができると思った。

田中委員

- ・高齢者の立場から言うと、操作はなんとなくできるが頻繁に使っていないと忘れてしまう。私はできるだけやろうと思っているが、試行錯誤しながら時間がかかると、もうやめたくなる。若い人だけでなく、高齢者は広報はちおうじから情報を収集している人が多いので、LINE から情報が得られることを PR したらいいと思う。また、見ると楽しいコンテンツがあるといいと思った。

小林会長

- ・私たちは若い世代を焦点化して議論していますが、井出委員も言っていたように、「てくポ」は高齢者いきいき課がやっていることで LINE とは連動しない。庁内では業務がセグメント化されてしまっていてつながっていないから、そこが変わらないと活用を妨げるということになる。
- ・セクショナリズムというのか、セクションごとに事業をやらざるを得ない伝統、この業務はこのセクションというのは市民に関係ない。LINE のような有効活用される便利なものが運用されたので、田中委員、井出委員が言ったように、市の職員側にも意識改革が近々でなくても、必要なのではないかと思った。

田中委員

- ・ドコモの携帯を使っているが、スマホ教室がある。LINE の教室もあったので参加して多少使えるようになった。
- ・興味を持つことが大事なので興味を持つような形にもってあげればいいのか。
- ・ドコモでも市がやっていることを PR してくれればいいのか。

小林会長

- ・ラインの出来具合と運用は非常に使いやすくなっているが登録してもらうにはどうしたらよいか。星原委員が言っていた呼び込みコンテンツとか、登録してもらうた

めのインセンティブが大事になってくる。

- ・登録したらマイナポイントのように、地元の商店街で割り引きされるとか、ポイントが使えるといいのではないか。
- ・LINE の入口まで若者世代をたどり着かせて、さらに登録させるにはどうするのか。さらに皆さんからの意見を伺いたい。

岡崎委員

- ・先ほどの「てくポ」ですが、それには万歩計機能がついていて歩くとポイント、ボランティア活動をするとポイント、あと脳トレゲームもついている。食育の部分もあるが、それでポイントがたまると市内のお店で使えるし、PayPay とも連動している。そんないいものだったら、すべての年代の人にボランティアポイントをつけられないのかと思う。脳トレアプリが「てくポ」には入っているから楽しみがあっていいと思う。
- ・65 歳以上で「てくポ」と LINE 両方ダウンロードして登録するのは大変だから、「てくポ」に登録した人がワンクリックで LINE につながったりする仕組みがあれば、もっと簡単になっていいと思う。
- ・「てくポ」のことを市の職員に質問したが職員でも知らなかったり、詳しいことをわからない人がいたので、もう少し横のつながりがあるといいと思った。
- ・八王子市の Facebook と LINE がつながっているが「いいね」の数が少ないので、もう少し工夫するといいいのでは。

田中委員

- ・私の孫が、山に行った写真や京都に行った写真を、「みてね」というアプリに載せている。八王子市の中にも「みてね」があって、そこに行くとイベントの写真とか載せるとかもいいのではないか。

山田委員

- ・今の流行りのアプリで「トリマ」というのがあって、誰でも登録できて移動距離や歩数に応じてポイントがたまっていく。そういうアプリをうまく活用して市の SNS の中にあると登録しやすいと思った。
- ・八王子はたくさんキャラクターがあるので、アンケートに答えるとはっちお〜じやたき坊の LINE スタンプがもらえたりすると登録しやすい。
- ・若者は Facebook よりインスタで、インスタは写真から入って、その後で文章を読むという流れである。
- ・ただ、公式のアカウントなのでくだけすぎではいけないし、情報がきちんとしていけないと思う。
- ・市の公式ではないが、先日 J:COM ホールで去年成人式ができなかった人たちのために行われたイベントのインスタを見た。

古川部長

- ・若い世代では面白いことを発信すると拡散されていくので、キャラクターやアーティストを使ってくださったものは Twitter や YouTuber など発信するといいいのでは。
- ・同じようなツールを使っているのに「てくポ」と LINE の連携がとれていなかったところは縦割り感が否めなかった。
- ・Facebook や Twitter は広報の一押しの記事を出しているのですが、ホームページとの差別化をしていかなければいけないと思った。
- ・インスタは写真が必要ですが、写真を撮るのが必ず市の職員でないといけないのかとか、ボランティアの方と連携するとかを考えていかなければならないと感じた。
- ・セクショナリズムを超えていかなければならないというのはその通りだと思った。

小林会長

- ・くだけすぎられない公式サイトがある一方、LINE との差別化でより若者に重きをお

いたと思った。

- ・大学業界の話になるが、近畿大学は最近人気がある。広報活動がすごくて、入学式のイベントにつつくさんと呼んだり、大阪駅前に看板を掲示したりして、広報に特化した専門部局を設置している。八王子市が同じようにできるかは、次元が違う話なのでわからないが、考え方のベクトルは決して相反するものではなくて、市側に求められてきていると感じた。

星原委員

- ・施策の成果を長期にわたって測るために、まずは若々しいところにターゲットを絞って、その施策がよかったかどうか見るのがいいと思った。M2全体の成果を測ろうと思っても、やることがぶれてしまうと思うので、デジタルネイティブを狙うのもいいと思う。そういう人たちにまず登録してもらって、興味をもってもらうことが大事で、そういった人たちが若いときから市政やこういったコンテンツに触れて、市政に触れられるんだという刷り込みを持って成長すれば、市政に触れるのが当たり前前の社会人が増えていくと思う。

小林会長

- ・八王子市で行っているおおり展があるが、あれは親が見に行くから、それを紐ずけるのもありだと思った。

星原委員

- ・大学、専門学校、高校などの学生は八王子がオフィシャルに取り上げてくれると嬉しいと思う。取り上げられることで、その情報は友達や親にもつながっていくし、何かしらのとっかかりにできると思う。学校がこれだけ多いのでどこかしらが引っかかったら、うちも、うちもということになると思う。

山本副会長

- ・小中高という世代については第6期で話しをしていて、学校に通っている人たちは学校単位で呼びかけていくことがしやすいという話しがでていた。
- ・星原委員が発言したことは、子どもに家庭からアプローチしていくというアイデアで、八王子に住んでいる小中高大学生にLINEや情報発信という形でのアプローチもできるのではないかと思った。

星原委員

- ・オンライン上で八王子学生コミュニティのようなものを作って、学校の垣根を超えて、そのコミュニティを市がフォローして、そこにどんどん参加してもらおうというアクションも面白いのではないかと思った。そのポータルがLINEでもいいし、ホームページでもいいし、広報はちおうじからでもいいし、間口はいろいろなところにあって、どこからでも入れるという敷居の低さが重要だと思う。

小俣課長

- ・若者が発信した内容が公式に市で認めてもらえて、そのことが口コミで広がり、若者が若者を巻き込んでいくというのは、非常に効果的であると感じた。どうきっかけを作っていくかが共通の意見で、一步入口にたって口コミが広がりだしたら、それ以降は常に拡散していくと思った。

小林会長

- ・どこの組織でもそうですが、持っているリソースをどう活用するか、あと、外部リソースをどう活用していくかということになる。
- ・私事だが、秋田の観光名所の写真を学生の発案でインターネットを使って募集したらとてもたくさん応募があった。それを壁一面になるなまはげの絵のモザイクアートにしたらとても反響があった。もとはブラウブリッツ秋田と言うJ2にいるサッカークラブの一つのイベントで、コストもほとんどかかっていない。環境関連の外郭団体がタイアップさせてくださいとってきて、あれよあれよと進んでいった。学生なのでコストもかからないし、パネルを購入するといっても費用は微々たるもので、こちらが想定していた以上に反響があった。スタジアムに来た方もそのパネルの前で記念

- 写真をとって、それを聞きつけた県庁が、しばらく県庁に飾らせてほしいと申し出があった。このように限られたリソースでやりようによってどうとでもなると思う。
- 井出委員
- ・以前星原委員が、オンライン上で参加者たちがゲームをどんどん盛り上げていくという話があったが、子ども食堂などもそうだが、今は第3の場所がすごく大事で、今までは行政があまり関与していなかったこうした部分も行政が力を入れて育てていく必要があると思う。お金や人を投入しなくてもプラットフォームさえ作れば可能だと思う。オフィシャルで何かをやれば信用力もあるし、民間の力を使えば持続可能なシステムができると感じた。
- 山本副会長
- ・私の子どもは今高校生ですが、スマートフォンで画面を見ているのは1秒で、字は読んでいない。気になるところがあったら止まって、それで内容も理解しているようだ。
 - ・職場と家庭ではない第3の場所、かつては居酒屋などがサードプレイスであり、家族の中での父親、職場での課長という肩書を取り払って、自由に自分を出したり、他の人と新しい関係性を築けた。今はあらゆる世代が、これまで与えられている役割から解放され、新しいネットワークをつくり、その中で力を発揮したり、他の人たちとの新しい関係をつくっていける場所として重要性があると言われている。それが地域の活力になり新しいものを生み出していくと言われている。
- 小林会長
- ・井出委員から、市にコミットしてもらえるサードプレイスが見つけられたら市民はそのコミュニティに入っていくし、LINE がそのプラットフォームとなり、きっかけ作りができたなら、じゅじゅつなぎのようにつながっていくような未来予想図が見えてきて、それがすごく大事だと思った。
 - ・LINE の活用の先にサードプレイス的な発想があり、その先には実は市民参加があるという、そんな筋道が今日の議論の中で見えてきた。
- 山本副会長
- ・若者世代に SNS を使ってどうアプローチしていくかが大事だと思う。まずは入口に来てもらう工夫をして、SNS で目から入ってくる写真や、短い動画をどう使うかだと思う。八王子市は高尾山などの観光があるのでインスタは使えると思う。八王子の良い所、視覚的に伝えられる所を、市内在住や市外在住に関わらず若い世代に紹介してもらいやり方も入口としていいと思う。
 - ・今は流行っていないかもしれないが、海外や観光関連の自治体が若者のインフルエンサーに旅行してもらい、その人たちのファンになってもらうやり方が、何年前まで、特にコロナ前までであった。
 - ・普段大学生と触れ合っていて思うことは、SNS の情報量はとても多いので1秒でどんどん見ていく。でも興味のあることは、理解して調べるので、その間の工夫が何段階かあると思う。それを具体的にどうつないでいくかは難しいと思うが、一足飛びにはできないと思うので何段階かに考えていく必要があると思った。
- 小林会長
- 岡崎委員
- ・今日の議論について皆さんから感想を。
 - ・八王子市の LINE を使った取組は素晴らしい。でも、Facebook の「いいね」の数が6くらいで少ない。八王子市の職員がもっと関心を持ってもらえれば、「いいね」の数が増えると思う。LINE もまず職員が使って口コミで伝わると思った。
 - ・八王子市からのお知らせが多いので、自分が興味がないとパスしてしまう。何かストーリー的なものがあると見たくなる。例えば、昨年認定された日本遺産だが、桑都物語という高尾山を含めた 29 の文化財についてストーリーにして連載していくとか。そうすると続きものだから見ると思う。いろいろ実現するのは難しいと思うが、

- まず一步を踏み出した八王子市に拍手を送りたい。
- 山田委員
- ・大きな取り組みを始めているとわかった。「てくポ」は父に勧めてみようと思った。
 - ・八王子の人は八王子が好きだとよく友人たちにも言われる。八王子出身の著名人を活かし、八王子らしさをおもしろく、くだけすぎない程度に出せると「いいね」となると思った。
 - ・さっき写真の話が出ていたが、ディズニー公式のインスタは一般人が撮った写真を使っていると聞いたことがある。職員以外の人が撮った写真もいろいろ使えると思う。
- 田中委員
- ・LINE は限界があると思う。その中でどこまで発信していけるかが大事だと思う。動画も写真もそれなりに限界があると思うので工夫しながら情報発信をしていく必要があると思う。
 - ・若い人が何に関心を持っているか、登録している人の年代やその年代が何に興味があるかわかると、何かのヒントになるかもしれない。
- 渡邊課長
- ・福岡市でも LINE を導入しているが 170 万人の方が登録している。八王子市も登録者が大勢になれば情報を取り残す人がいなくなると思っている。ただ、さきほどの話にもあったように限界があると思う。
 - ・さきほど情報が沢山送付されるという話があったが、私も 10 自治体くらい LINE の登録をしていて、沢山の LINE がくる。最初は沢山来ても飽きないが、段々飽きてしまう。そういうところをどうカバーしていくか。
 - ・今回口コミでも若者には伝わるという話が出ていたが、登録してもらうよう口コミで広めていくような地道な活動も必要で、ある程度地盤ができれば勝手につながり、何十万人という人に行きわたる仕組みができあがるのではと感じた。
- 山本副会長
- ・私は今 NPO のソーシャルメディアを担当しているが、若者を取り込むために SNS を使っている。若者は写真や画像でどんどん判断していて、Facebook、Twitter もどんどんスワイプしていき、いいねの数が多いものに惹きつけられている。いいねの数が多い写真や画像は、これは何かと興味を引かせ、同時に内容がわかり、もっと知りたいと思うものである。若者は字を読まないが、大事なものは字でも反応する。
 - ・八王子市の Facebook と Twitter を見た感想だが、写真の載せ方で損をしていると思った。どう映るかが大事で、広告もそのためにバナーをつくってもらってだしてもらってことで拡散されるものが変わったりする。
- 井出委員
- ・八王子市の職員は非常に優秀な方が多いし、他の自治体に比べると市内に在住している方が多い。セクショナリズムを超えて視野を広げて仕事を進めてもらいたい。
 - ・八王子市は広いので、中学校区のエリアごとに登録できるとか、地域ごとの情報があってもいいと思った。
- 繁野委員
- ・ターゲット区分で私は F1 層になるが、LINE、インスタ、Twitter はやっているが、Facebook は私の周りでやっている人はいない。そういった中でこれから Facebook に力を入れるのは違うと思った。
 - ・八王子市の公式アカウントに自分の写真が載るといのは拡散力があると思っている。最近人気のあるフワちゃんに市の公式アカウントをジャックされたと発信すると爆発的にフォロワーが増えるのではないかと思う。八王子にゆかりのある有名人を活用して LINE や Twitter や Facebook に紐ずいて、そこから若い人に興味を持ってもらって、まずはフォロワー数を増やしてはどうか。

- ・公式アカウントがもっている重要性プラス外部の有名人や自分の投稿が載るかもしれないということを活用していくと、そんなにお金をかけずに拡散していくと思った。
- ・最近、東京ワクションという制度ができて、私のまわりでも東京ワクションに早めに登録すると何かオプションがもらえるらしいと話しがあり、みんな登録している。数人分の景品でも、そこにお金をかけると一気に登録数が伸びるかもしれないと思った。

星原委員

- ・LINE のリニューアルという大きな1歩に拍手をしたい。市民参加を促進するために画像が採用されるというのも1つの手だと思う。市からの情報なので、くだけられないところはあると思うが、セグメント分けができたので、八王子ファンのようなカジュアルなセグメントについて流すのも1つの手かもしれないと思った。あとは、八王子市の Facebook や Twitter でもプロモーションツイートなどを参考にするといいと思った。

小林会長

- ・本日も貴重な意見をいただいた。
- ・情報発信のツールが便利である一方で峻別していかなければいけない。LINE は1つのチャンネルとして限界がある。
- ・インスタに限らず目に飛び込んでくる情報のインパクトはあると皆さん言っていた。場合によってはインスタの開設も視野においてもいいのかなと思った。
- ・職員の方にも LINE の登録を実践してほしい。

(3) 次回以降の議論の内容

小林会長

- ・次回までが「若い世代の市民参加の推進について」、来年からは「市民参加条例の運用状況の検証について」を議論する。

2. その他・事務連絡

小林会長

- ・その他事務連絡について、事務局より説明を。

(事務局より次回日程説明。)

小林会長

- ・次回は12月22日(水)午後6時30分から同じ会場で開催を予定している。詳細は後日改めて通知する。
- ・以上で、本審議会を終了する。

閉会